

# 自己の心理と病理 自我障害

## —ヤスパースの誤り

## 自己は自明のものではない—



東京大学総合文化研究科  
認知行動科学

丹野義彦



1

## 自我障害

### 1 自我障害はどんな現象か？

### 2 原因論

どんなメカニズムで？

2-1. 自我漏洩感

2-2. 自己主体感

2

## 共同研究者(丹野研究室)

佐々木淳(大阪大学准教授)  
杉森絵里子(早稲田大学准教授)  
浅井智久(NTTコミュニケーション研究所)  
三吉留美子(鉄道研究所)  
毛竹(住友商事)



### 統合失調症の症状別アプローチ

	症状	アナログ研究
陽性 症状	妄想	妄想的観念
	幻覚	幻覚様体験
	自我障害	自我漏洩感
陰性 症状	自閉	引きこもり 対人不安
	感情鈍麻	アパシー
	連合弛緩	

## 自我障害の症状

### 作為体験＝させられ体験

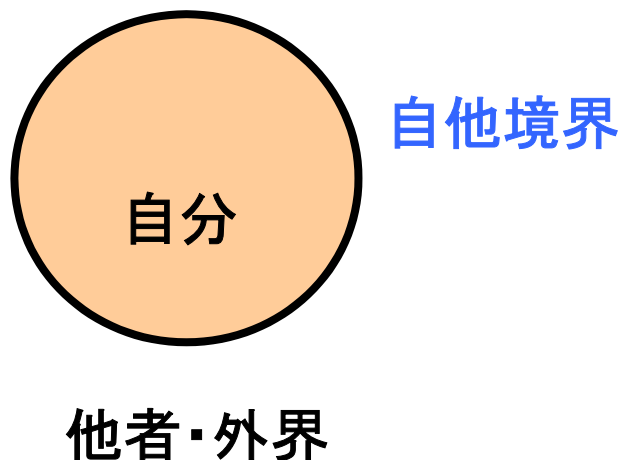
「誰かが考えを吹き込んでくる。  
誰かにいやなことをさせられる。操られる。  
考えを奪われる。  
自分の行為にいちいち口出しされる」

### 自我漏洩体験＝つつぬけ体験

「何も言わないのに、自分の考えていること  
がまわりの人に知れ渡ってしまう。見知らぬ  
人が自分の考えを見抜いている。学校や会  
社の人が、自分の秘密を知っている。」

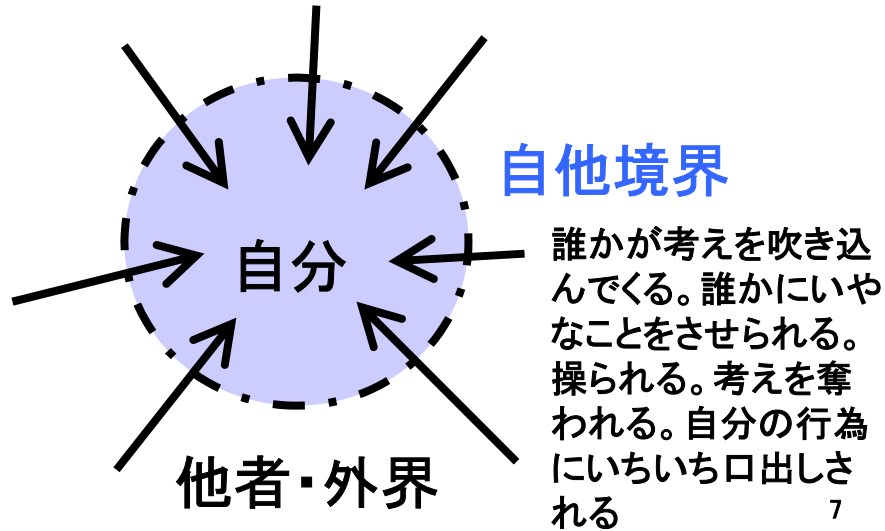
5

## 自我障害 通常の自己体験

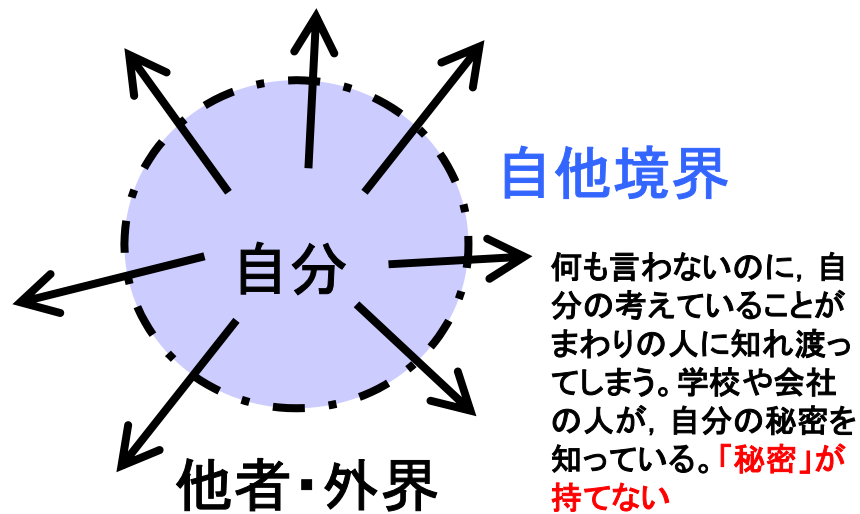


6

自我障害（1）  
作為体験＝させられ体験



自我障害（2）  
自我漏洩体験＝つつぬけ体験



8

## 自我意識(ヤスパース,1948)

### 健全な人の自己感覚は4つの指標を持つ

能動性	自分の知覚・思考・感情は自分のものであって、他人のものではないという感じ
境界性	自分が他者と違ったものであり、自己と他者の間には心理的な境界(自我境界)があるという感じ
単一性	自分という人間は今ただひとりであり、統一がとれているという感じ
同一性	自分は現在も過去も連続した同一のものであるという感じ



## Karl Jaspers (1883～1969年)



ハイデルベルク大学の精神科で医師として働く。

現象学から精神医学を体系化した「記述精神病理学」を完成。主著は『精神病理学総論』。この書は、今でも精神病理学のバイブル。

(ちなみに丹野も異常心理学の確立において大きな影響を受けた)

30歳すぎて哲学に移り、ハイデルベルク大学とバーゼル大学の教授をつとめた。実存主義哲学の代表的な思想家として知られる。



## 自我意識とその障害(ヤスパース,1948)

健全な自我意識	障害
①能動性: 自分の知覚・思考・感情は自分のものであって、他人のものではないという感じ	離人感、強迫性障害、自我障害(させられ体験)
②境界性: 自分が他者と違ったものであり、自己と他者の間には心理的な境界(自我境界)があるという感じ	自我障害(つつぬけ体験)
③単一性: 自分という人間は今ただひとりであり、統一がとれているという感じ	二重自我体験、憑依体験
④同一性: 自分は現在も過去も連続した同一のものであるという感じ	同一性の変化

## ヤスパースの自我意識説への批判

健全な自我意識	障害	アナログ研究からの再解釈
能動性	離人感、強迫性障害、自我障害(させられ体験)	ラバーハンド・イリュージョン ソースモニタリング課題 (能動性の推論説)
境界性	自我障害(つつぬけ体験)	自我漏洩感の研究 (自他境界の動的平衡理論)
単一性	二重自我体験、憑依体験	内在他者論
同一性	同一性の変化	自伝的記憶論?

# 自我障害

## 1 現象論

どんな現象か？

## 2 原因論

どんなメカニズムで？

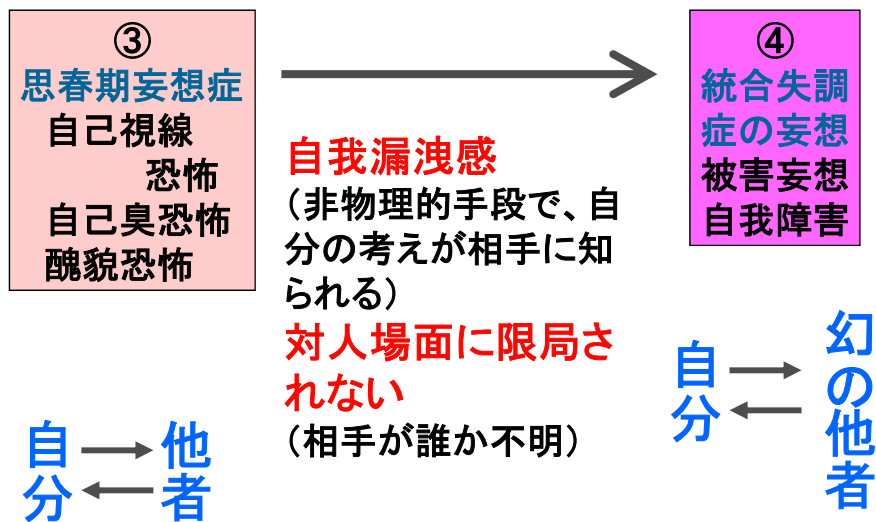
2-1. 自我漏洩感

2-2. 自己主体感

13



## 思春期妄想症から妄想へ



14

## 📖 自我漏洩症状の構造

- 1 自分から何かが漏れる
- 2 相手に伝わり不快にさせる



- 3 相手から嫌われる

## 📖 丹野研の博士論文

### 大学生における自我漏洩感の 心理学的研究

佐々木 淳

風間書房

2011年





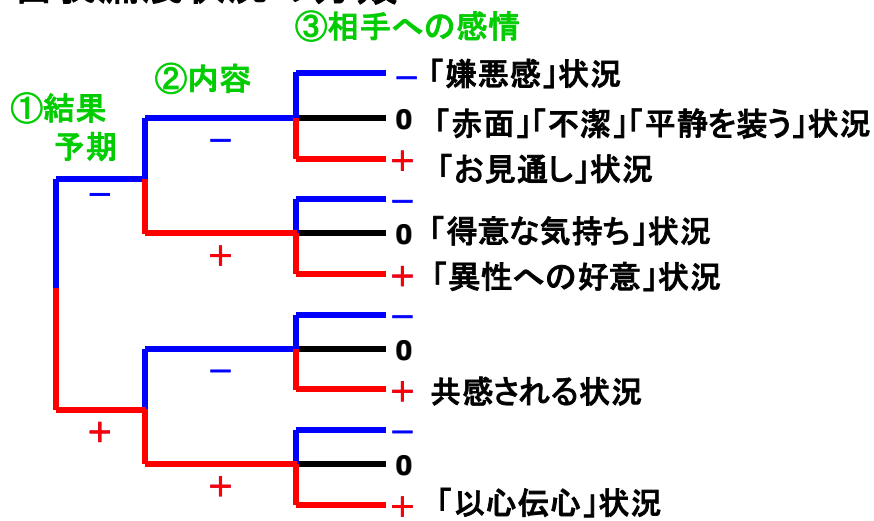
自我漏洩感は健常者でも体験する（佐々木・丹野,2003）

自我漏洩感尺度の項目例	体験率 (%)
親しい人に以心伝心で考えが伝わるように感じられた時	88.8
人にかからかわれて顔が赤くなったときや、人前で何か失敗をして汗をかいたとき	80.9
何かに成功して得意な気持ちになったとき	75.6
目つきが鋭くなったり、私の顔が引きつったりしたとき	74.4
思いを寄せている異性と目が合ったり、その人から見つめられたりしたとき	63.3

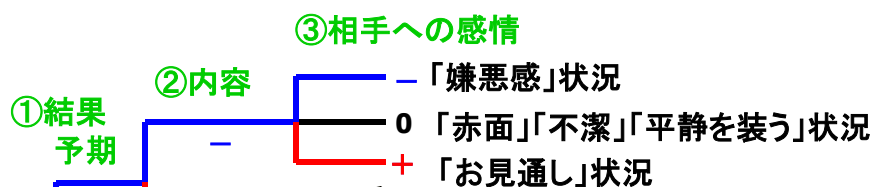
自我漏洩状況は、3つの次元から分類できる

- ①相手に伝わることで予期される結果  
(ポジティブ・ネガティブ)
- ②相手に伝わる情報の属性  
(ポジティブ・ネガティブ)
- ③相手に対して自分がいだく感情  
(ポジティブ・ネガティブ・ニュートラル)

## 自我漏洩状況の分類



## 自我漏洩状況の分類



結果予期がネガティブで、内容がネガティブな状況

**嫌悪感**: 嫌いな人に、自分の嫌悪感が伝わる

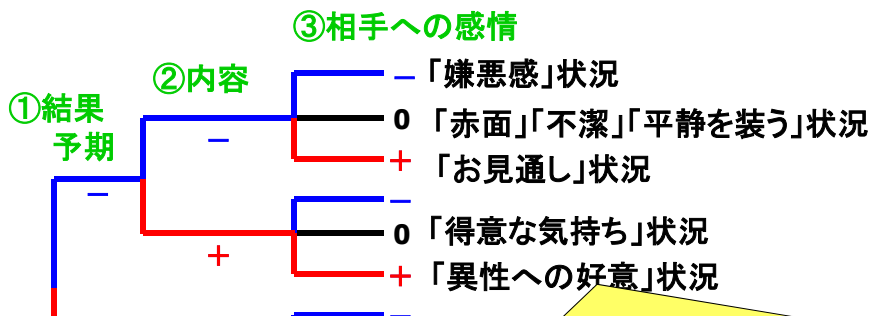
**赤面**: 失敗した時に、ショックが見透かされてしまう  
友達からからかわれ動揺が見透かされる

**不潔**: 体臭や口臭で不潔さに気づかれてしまう

**平静を装う**: 動揺を抑えようとしても伝わる

**お見通し**: 親や親友にウソをついてもばれてしまう

自我漏洩状況の分類



結果予期がネガティブで、内容がポジティブな状況

**得意な気持ち**: 成功したり人前でほめられた時に、自分の得意な気持ちが周りに見透かされる

**異性への好意**: 隠していても、好きな異性に好意が伝わってしまう

自我漏洩状況の分類



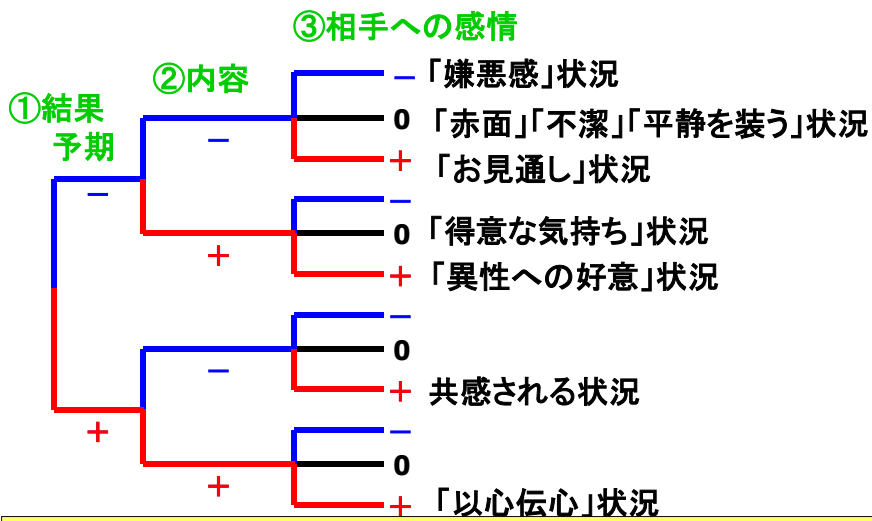
結果予期がポジティブなら、内容がネガティブでも、自我漏洩状況ではない

**共感される状況**: 親友に自分の弱みを見透かされても、共感されて安心する

結果予期がポジティブで、内容がポジティブなら、自我漏洩状況ではない

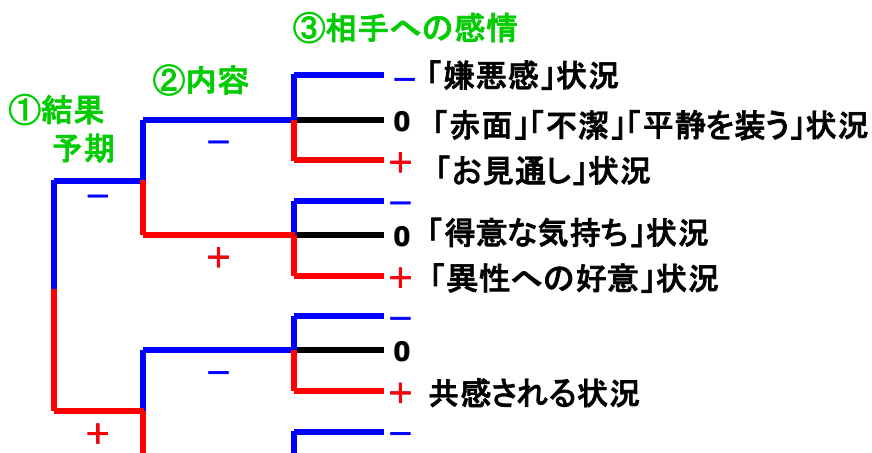
**以心伝心**: 何も言わなくても、親や親友に自分の気持ちが以心伝心で伝わる

### 自我漏洩状況の分類



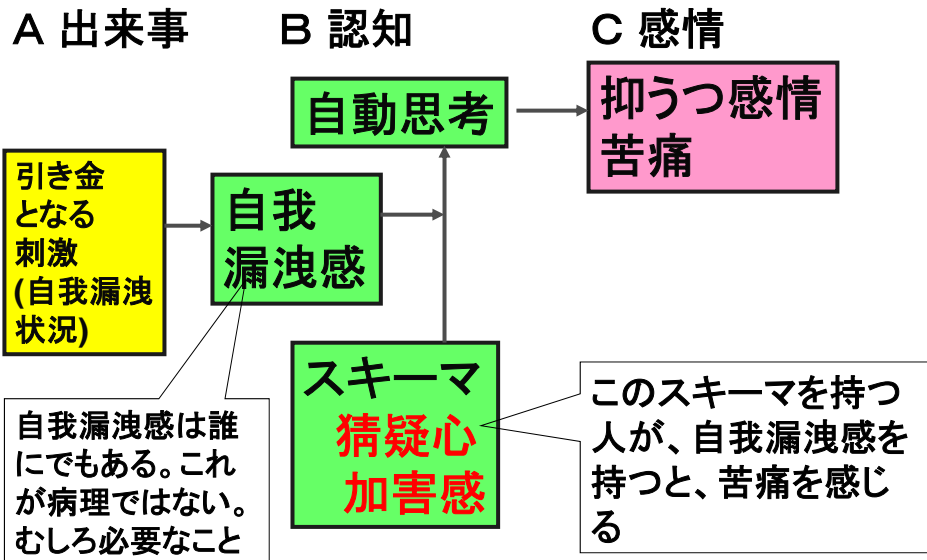
自我漏洩により、結果予期①がネガティブだと、苦痛を感じる。  
ポジティブだと苦痛を感じず、むしろ快い。問題にならず

### 自我漏洩状況の分類

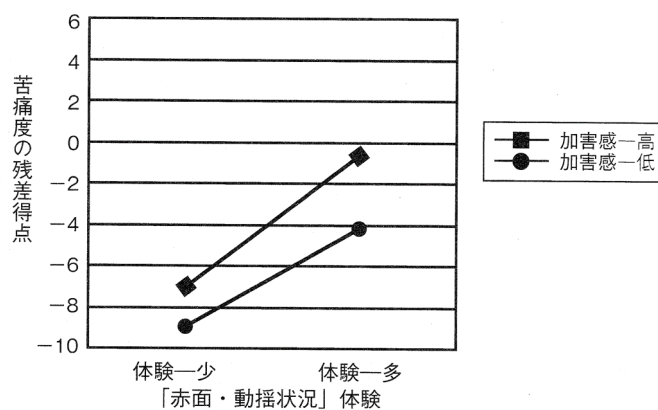


自我漏洩は、自分の内面を他者に伝えること(自己開示)なので、対人コミュニケーション上は、むしろ必要。  
逆に、自己を他者から閉じることも、場合によって必要。  
(例: 親からの自立。他者の意見に同調せず自己防衛)  
では、なぜ、ある人は自我漏洩が苦痛となるのか？

## ③ 自我漏洩感の認知モデル

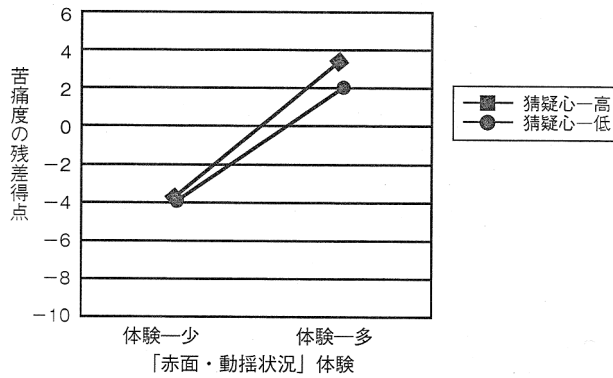


## ③ 加害感 項目例: 自分の嫌な表情や体臭などが、他者を不快な気持ちにさせている



加害感というスキーマを持つ人は、自我漏洩感状況を体験した時に、苦痛を持ちやすい

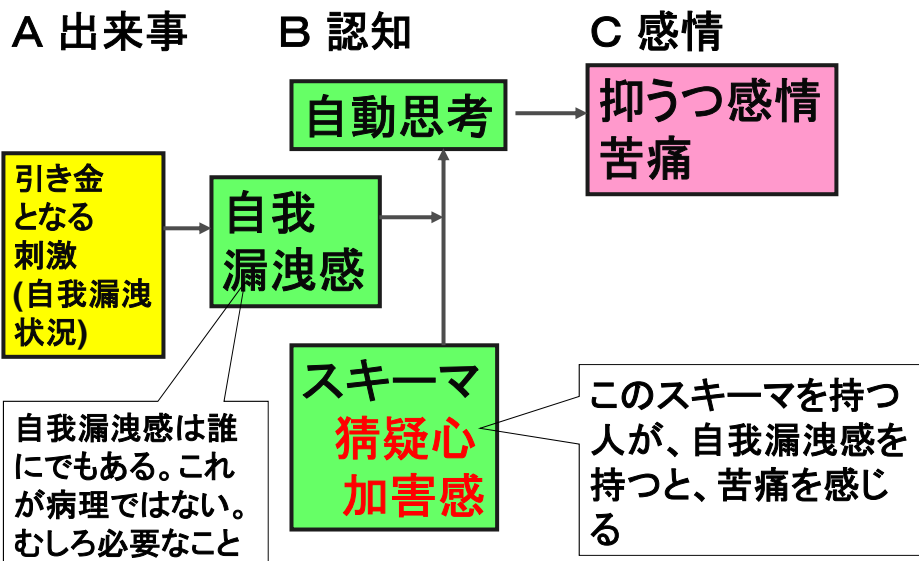
📖 猜疑心 項目例:秘密を隠そうとすればするほど、他人はますますその秘密を暴こうとするだろう



猜疑心というスキーマを持つ人は、自我漏洩感状況を体験した時に、苦痛を持ちやすい傾向

佐々木・丹野(2005) 27

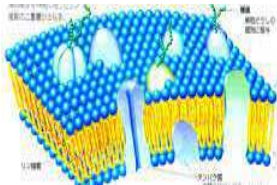
📖 自我漏洩感の認知モデル



## 自他境界の動的平衡理論



他者・外界

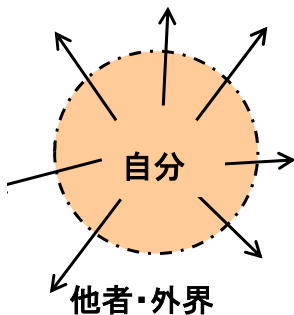
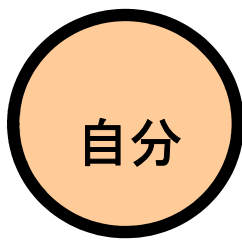


**健全者**では、自他境界とは、本来は閉じたり開いたり自由にできるもの。

自分からの圧力と、他者からの圧力で、「**動的平衡**」の状態にある。一見固い膜のようだが、実は動いており、動的なバランスをとっている。**生体膜**のようなもの。時と場合によって、柔軟に意図的に開閉できる(**自己開示と自己防衛**)。

29

## 自他境界の動的平衡理論



内閉性格の人は、自他境界が硬直化して固くなる。

「漏れ出て恥ずかしいから、漏れないようにしよう」と、秘密主義の殻を作ってしまう。

このため、自他境界から**少しでも自我が外に流れ出ると、心のすべてが外に漏れ出るように感じる。⇒自我障害**

「何も言わないのに、自分の考えていることがまわりの人に知れ渡ってしまう。学校や会社の人、自分の秘密を知っている。「秘密」が持てない」

30

# 自我障害

## 1 現象論

どんな現象か？

## 2 原因論

どんなメカニズムで？

2-1. 自我漏洩感

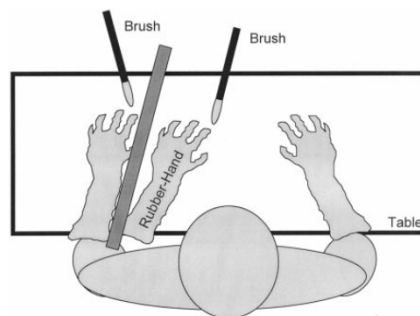
2-2. 自己主体感

31

## 統合失調型パーソナリティと自己主体感の研究

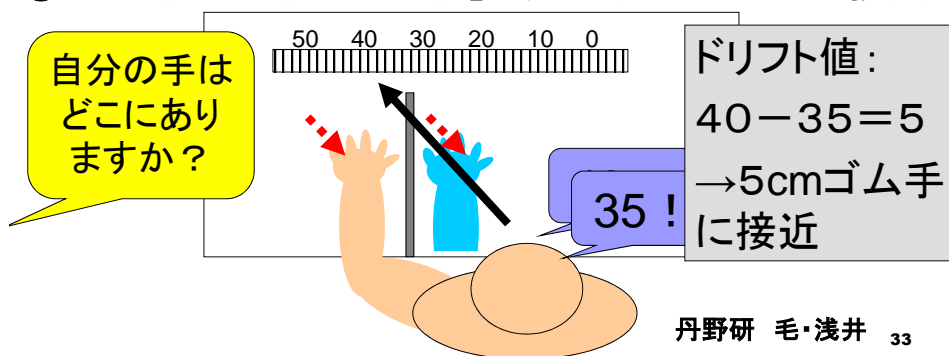
### ゴムの手の錯覚 ラバーハンド・イリュージョン

- ゴムの手に対する蝕刺激を見続けるうちに、ゴムの手が自分自身の手のように感じるようになる。  
(Botvinick & Cohen, 1998)

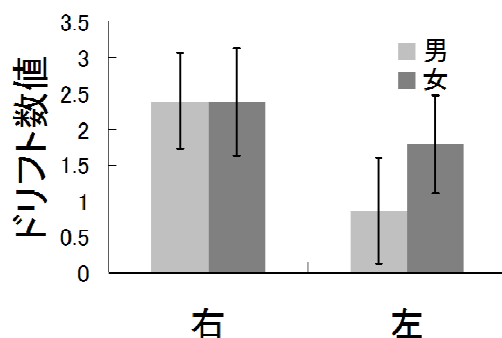




- ①最初に自分の手があると感じる場所の目盛りを報告する  
(自分の手は見るできない)
- ②ゴム手と実際の手に同時に触刺激を与える(2分間)
- ③もう一度、自分の手があると感じる場所を報告する
- ④2つの値の差を「ドリフト値」とする (+はゴム手へ接近)



## ラバーハンド・イリュージョン



「自分の身体の境界性」は自明のものではない。  
 外界の刺激に応じて、「自己の身体」は変容しうる

## ラバーハンド・イリュージョンと 統合失調型パーソナリティ

---

統合失調型パーソナリティ質問紙  
「陽性症状」尺度との相関係数

---

**ドリフト値** .34 ( $p < .01$ )

---

ラバーハンドイリュージョンの強さには個人差がある。  
統合失調型パーソナリティの強い人ほど強い。  
自分の身体の境界があいまい？

35



### 「記憶違い」と心のメカニズム

杉森絵里子

京都大学学術出版会

2012年





## ソース・モニタリング課題 自己の能動性の仕組みを探る

### 1. 学習段階

いろいろな条件で、単語を学習

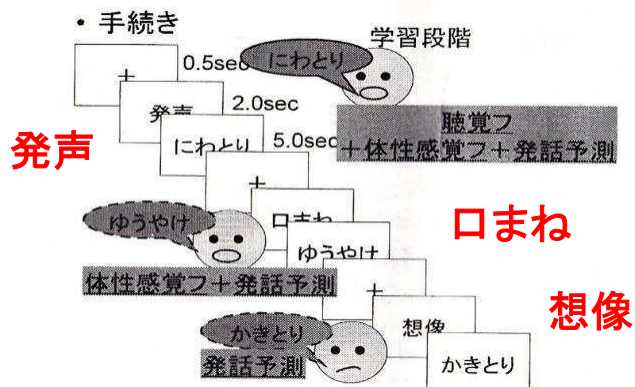
### 2. モニタリング段階

にわとり  
あなたが発話したか？  
はい いいえ

37



### 1. 学習段階

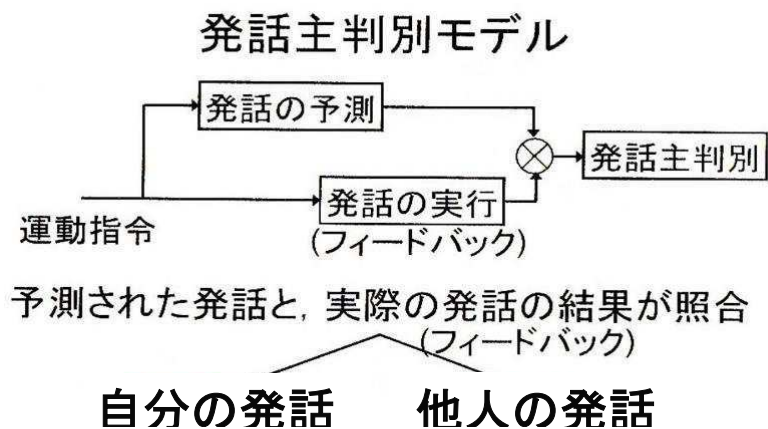


自己主体感を増す情報	学習条件		
	発声	口まね	想像
自分の発話の予測	○	○	○
口の筋肉の体性感覚フィードバック	○	○	×
自分の声の聴覚フィードバック	○	×	×

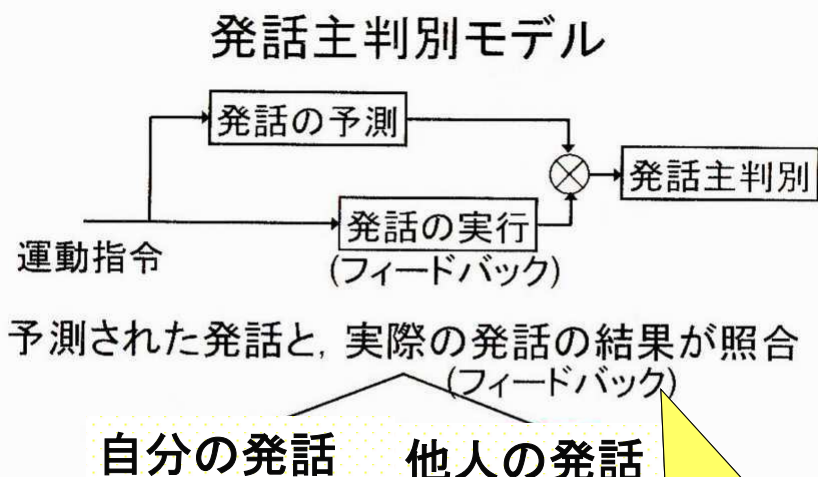
38

仮説 情報が多いほど自己主体感が強くなるのでは？

他者からくすぐられるとくすぐりたいが、  
自分でくすぐってもくすぐたくないのはなぜか

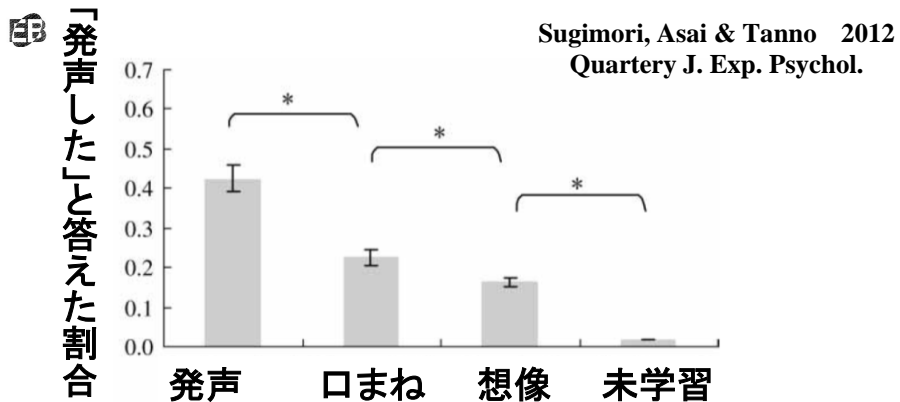


(Jones & Fernyhough, 2007)



フィードバックの量が多いほど、  
「自分の発話」と判断する。

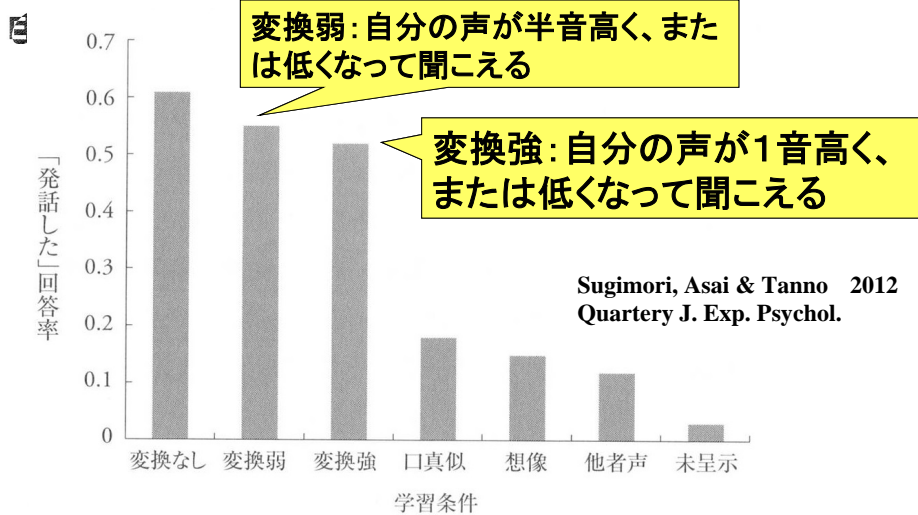
40



自己主体感を増す情報	学習条件		
	発声	口まね	想像
自分の発話の予測	○	○	○
口の筋肉の体性感覚フィードバック	○	○	×
自分の声の聴覚フィードバック	○	×	×

41

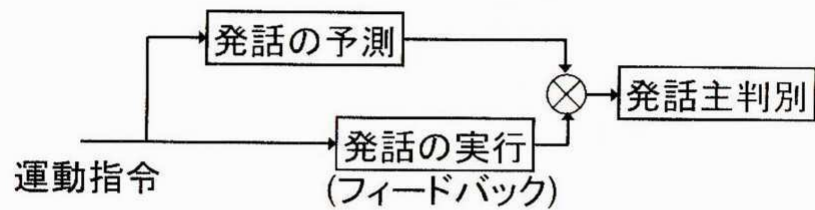
仮説通り、情報が多いほど自己主体感が強い



仮説通り、情報が多いほど自己主体感が強い

42

## 発話主判別モデル



予測された発話と、実際の発話の結果が照合  
(フィードバック)

自分の発話      他人の発話

フィードバックの量が多いほど、「自分の発話」と判断する。

43

## 自己の能動性の推論説

「自分が何かをした」という能動性は自明のものではない  
被験者は、「自分が発話した」かどうか曖昧



記憶の中から情報を集めて、発話したかを判断

- ①発話予測
- ②体性感覚のフィードバック(話した時の口筋の動き)
- ③聴覚フィードバック(話した自分の声の記憶)

これらの情報を加算して、「自分が発話した」と推論する

①～③のどれかを妨害すると、情報量が少ないので、「自分が発話した」かどうかわからなくなる

⇒自己は推論されるもの。

ヤスパースの言う能動性のように自明のものではない

44

## 自我意識とその障害（ヤスパース）

健全な自我意識	障害
①能動性： 自分の知覚・思考・感情は自分のものであって、他人のものではないという感じ	離人感、強迫性障害、自我障害（させられ体験）
②境界性： 自分が他者と違ったものであり、自己と他者の間には心理的な境界（自我境界）があるという感じ	自我障害（つつぬけ体験）
③単一性： 自分という人間は今ただひとりであり、統一がとれているという感じ	二重自我体験、憑依体験
④同一性： 自分は現在も過去も連続した同一のものであるという感じ	同一性の変化

## ヤスパースの自我意識論の再解釈

健全な自我意識	障害	アナログ研究からの再解釈
能動性	離人感、強迫性障害、自我障害（させられ体験）	ラバーハンド・イリュージョンソースモニタリング課題（能動性の推論説）
境界性	自我障害（つつぬけ体験）	自我漏洩感の研究（自他境界の動的平衡理論）
単一性	二重自我体験、憑依体験	内在他者論
同一性	同一性の変化	